需給動向

海外の畜産物の需給動向

牛　肉

米　国

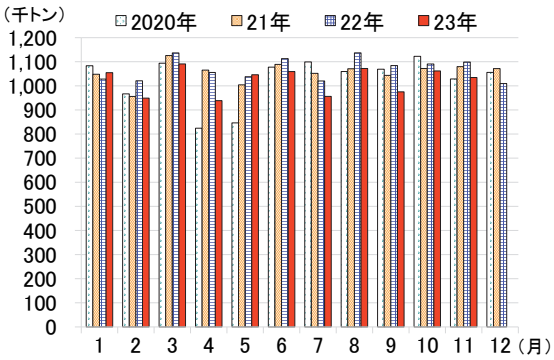
23年12月のフィードロット飼養頭数、３カ月連続で前年を上回る

23年11月の牛肉生産量は前年同月比5.8％減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2023年11月の牛と畜頭数は268万1000頭（前年同月比6.1％減）とかなりの程度減少した。この結果、同月の牛肉生産量は103万5000トン（同5.8％減）となり、６カ月連続で前年同月を下回った（図１）。現地情報によると、牛群の縮小局面にある中、食肉処理加工業者（パッカー）の収益率の低迷から、と畜頭数が減少しているとされる。

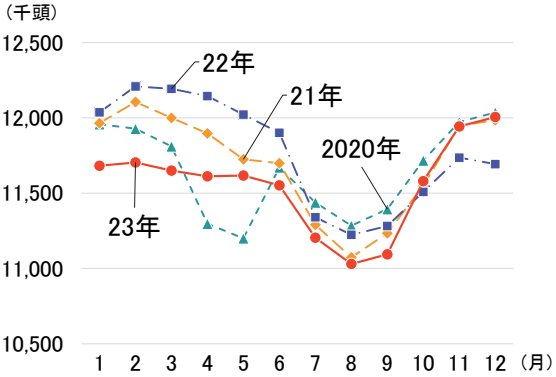
また、同月のフィードロット導入頭数は186万8000頭（同1.9％減）とわずかに減少し、出荷頭数は175万1000頭（同7.4％減）とかなりの程度減少した。この結果、23年12月１日時点のフィードロット飼養頭数は1200万6000頭（同2.7％増）とわずかに増加し、３カ月連続で前年同月を上回った（図２）。こうした状況を踏まえUSDAは、24年の牛肉生産量予測を前月から８万2000トン引き上げて1178万9000トン（前年比3.5％減）としたものの、依然として前年を下回っている。

図１　牛肉生産量の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注：枝肉重量ベース。

図２　フィードロット飼養頭数の推移



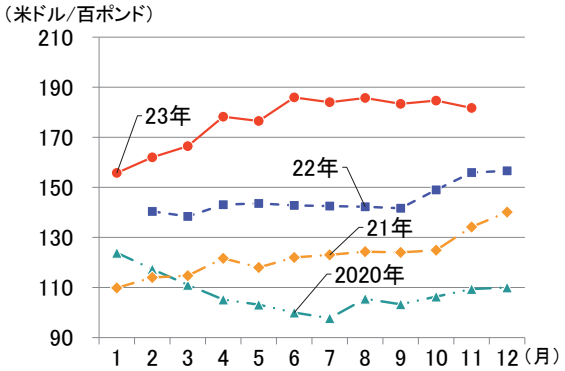
資料：USDA「Cattle on Feed」
注１：1000頭以上規模のフィードロットが対象。
注２：各月１日時点。

23年11月の肥育牛価格は高止まりも、前月比で1.6％安

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2023年11月の肥育牛価格は、飼養頭数が減少基調にあって、と畜頭数も減少

している中で100ポンド当たり181.71米ドル（１キログラム当たり572円：１米ドル＝142.83円(注１)、前年同月比16.5％高）と大幅に上回った（図３）。ただし、前月比では1.6％安とわずかに下落している。また、同月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー(注２)）は、肥育牛価格が高止まりする中で100ポンド当たり299.30米ドル（１キログラム当たり942円、同15.3％高）となった。

図３　肥育牛価格の推移



資料：USDA「Livestock ＆ Meat Domestic Data」
注１：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。
注２：2022年１月の値は、N/A値。

（注１）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年12月末TTS相場。
（注２）各部分肉の卸売価格を１頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。

23年10月の牛肉輸出量は前年同月比20.5％減

USDA/ERSによると、2023年10月の牛肉輸出量は10万9533トン（前年同月比20.5％減）と大幅に減少し、23年１～10月累計では115万9446トン（前年同期比14.9％減）とかなり大きく減少した（表）。10月の輸出量を輸出先別に見ると、メキシコ、台湾向けは前年同月を上回ったものの、それ以外の主要輸出先向けはいずれも前年同月を下回った。国内牛肉価格の高騰に加え、豪州産牛肉との競合や、中国をはじめとするアジア諸国での需要減が要因とみられる。23年の輸出量についてUSDAは、137万4000トン（前年比14.5％減）と見込んでいる。

表　輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2022年10月	23年10月	前年同月比（増減率）	輸出割合	23年（１～10月）	前年同期比（増減率）
韓国	30,099	22,136	▲26.5%	20.2%	254,181	▲17.7%
日本	28,477	21,391	▲24.9%	19.5%	245,807	▲21.3%
中国	28,056	16,873	▲39.9%	15.4%	193,855	▲22.6%
メキシコ	12,036	12,798	6.3%	11.7%	117,196	13.7%
カナダ	10,761	9,870	▲8.3%	9.0%	103,387	▲0.1%
台湾	6,299	6,959	10.5%	6.4%	74,321	▲5.5%
香港	4,021	3,874	▲3.7%	3.5%	34,319	12.5%
その他	17,955	15,633	▲12.9%	14.3%	136,381	▲21.7%
合計	137,704	109,533	▲20.5%	100.0%	1,159,446	▲14.9%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

（調査情報部　小林　大祐）

豪　州

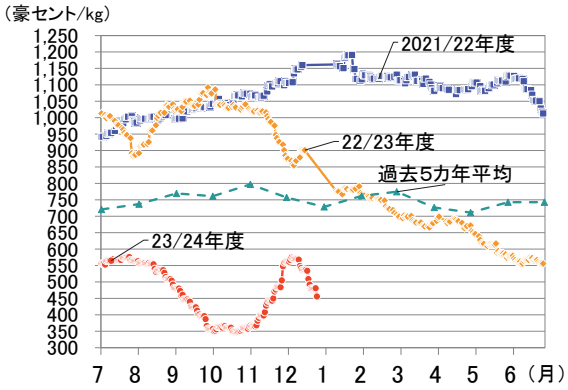
と畜頭数および牛肉輸出量は高水準で推移

23年12月末の肉牛価格、出荷頭数の増加により下落

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2023年12月上旬までの上昇基調から下落に転じ、直近12月26日時点の同価格は１キログラム当たり456豪セント（451円：１豪ドル＝98.94円(注)）となった（図１）。現地報道および豪州気象局（BOM）によると、エルニーニョ現象に起因する乾燥予想に反し、11月は豪州の広範囲で一定量の降雨が記録されたことで、牧草の確保が可能との見通しから、牧草肥育業者の需要が高まり肉牛価格も上昇していたが、家畜市場への出荷頭数が増加したことで下落に転じたとされている（図２）。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年12月末TTS相場。

図１　EYCI価格の推移

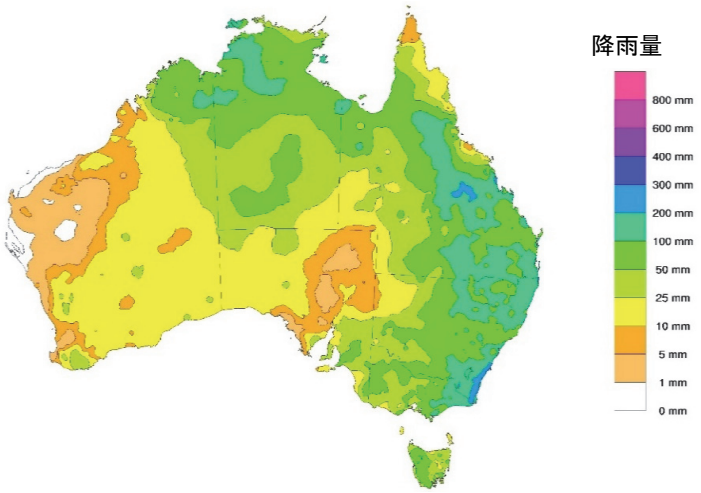


資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
注１：年度は７月～翌６月。
注２：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部３州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

23年12月の成牛と畜頭数、減少基調も依然高水準

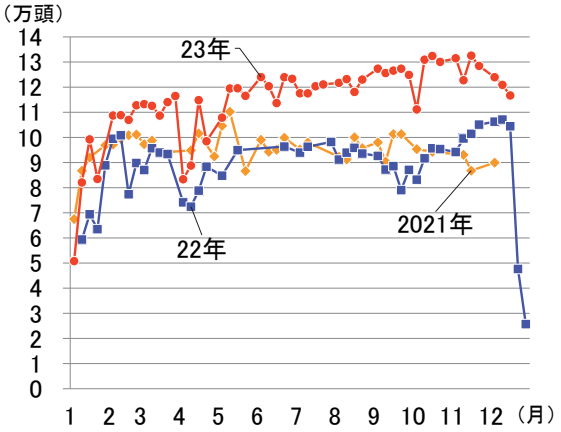
2023年12月第３週の成牛と畜頭数は、11万6695頭（前月同週比11.9％減）とかなり大きく減少したが、依然として高水準で推移している（図３）。現地報道によると、（1）11～12月の降雨による一部食肉処理施設での稼

図２　月間累積降雨量分布図（2023年11月）



資料：BOMウェブサイトから引用（一部改変）

図３　成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
注１：成牛のみ（子牛は含まない）。
注２：年末および３～４月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

働時間の制約（2）食肉検査官らの賃金をめぐる労働争議（3）新型コロナウイルス感染症（COVID－19）やインフルエンザ罹患による従業員の欠勤―などが操業に支障を来し、と畜頭数の減少につながったとされている。

23年11月の牛肉輸出量、米国向けを中心に高水準を維持

豪州農林水産省（DAFF）によると、2023年11月の牛肉輸出量は、９万3802トン（前年同月比34.6％増）となり、前月比では10.8％減少したものの、前年同月比では大幅に増加した（表）。

表　輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2022年11月	23年11月	前年同月比（増減率）	23年（１～11月）	前年同期比（増減率）
米国	9,383	19,539	108.2%	210,293	79.3%
韓国	13,302	18,117	36.2%	173,466	20.0%
日本	17,267	17,857	3.4%	187,788	▲ 5.1%
中国	13,487	16,206	20.2%	187,792	29.4%
東南アジア	7,885	11,063	40.3%	108,121	29.1%
中東	2,138	3,209	50.1%	26,775	3.1%
ＥＵ	502	594	18.2%	7,881	15.0%
その他	5,732	7,217	25.9%	73,565	29.1%
輸出量合計	69,697	93,802	34.6%	975,681	25.3%

資料：DAFF
注１：船積重量ベース。
注２：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。
注３：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ））。

輸出先別では、米国向けが同国の牛群再構築に伴う牛肉生産量減少を背景に、１万9539トンと前年同月比２倍となっている。現地報道によると、24年は昨年以上に米国向け輸出量が増加するとされており、これまで米国向け輸出の主な製品であったハンバーガー用の冷凍の牧草肥育牛肉などに加え、今後は冷蔵の穀物肥育牛肉の輸出量も増加すると見込まれている。引き続き米国の牛肉生産量の減少が見込まれる中で、外食産業からの牛肉需要が高いことから、豪州産やブラジル産の穀物肥育牛肉への代替が検討されているとしている。また輸出先第２位の韓国向けは、米国からの牛肉輸出量の減少により、豪州産牛肉に切り替える動きがあり、１万8117トン（同36.2％増）と大幅に増加している。

（調査情報部　国際調査グループ）

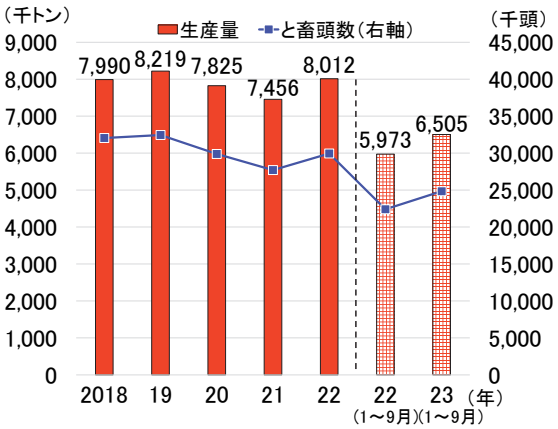
ブラジル

2023年の肥育牛価格は前年を下回る水準で推移

23年１～９月の牛と畜頭数は経産牛を中心に増加

ブラジル地理統計院（IBGE）が四半期ごとに公表する資料によると、2023年１～９月の牛と畜頭数は2484万3000頭（前年同期比10.9％増）、牛肉生産量は650万5000トン（同8.9％増）といずれも前年同期をかなりの程度上回った（図１）。これは、生体牛価格が下落傾向で推移する中、肉用牛生産者が繁殖用雌牛を中心にと畜向け出荷を増加させる傾向が強まったためである。23年の牛と畜頭数は増加傾向で推移しており、直近四半期（７～９月）では同12.2％増と1997年に統計を取り始めてから最多となった。これを種類別に見ると、雄牛が同5.5％増となる一方、経産牛は同24.6％増と大幅に増加した。

図１　牛肉生産量および牛と畜頭数の推移



資料：IBGE
注１：牛肉生産量は枝肉重量ベース。
注２：2023年は速報値。

近年の状況を見ると、2020、21年のと畜頭数はいずれも前年を下回った。これは、19～22年に子牛価格が上昇したことで、繁殖農家が増頭のため繁殖雌牛を保留したためとみられる。22年は、牛肉価格が高水準で推移したことから３年ぶりに増加した。

23年１～11月の牛肉輸出量は前年同期をわずかに下回る

ブラジル商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2023年１～11月の牛肉輸出量は、179万7466トン（前年同期比2.2％減）と高水準であった前年同期をわずかに下回った（表）。また、同期間の輸出単価は１トン当たり4755米ドル（67万9157円：１米ドル＝142.83円(注)、同20.9％安）と大幅に低下した。

輸出先別に見ると、輸出量全体の６割を占める中国向けは107万9471トン（同5.2％減）と前年同期をやや下回った。これは、２月にブラジル北部パラー州で非定型BSEに感染した牛が確認されたことで、同国向け輸出が１カ月間（２月23日～３月22日）停止した影響が大きい。また、中国国内での牛肉需給の緩和を背景に、同国向け輸出単価が同26.3％安と大幅に低下したことも影響した。このほか、エジプト向けは同国でのインフレの進行から同33.8％減と大幅に減少した。一方、中国に次ぐ輸出先のチリ向けは、国内のインフレ圧力の緩和から同28.5％増と大幅に増加した。

表　牛肉輸出の推移

区分	2022年（1～11月）			23年（1～11月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	1,139,163	7,460,221	6,549	1,079,471	5,212,005	4,828	▲5.2%	▲30.1%	▲26.3%
チリ	71,069	355,732	5,005	91,334	444,547	4,867	28.5%	25.0%	▲2.8%
米国	78,757	397,677	5,049	79,582	368,590	4,632	1.0%	▲7.3%	▲8.3%
アラブ首長国連邦	53,950	250,082	4,635	61,957	275,911	4,453	14.8%	10.3%	▲3.9%
エジプト	82,509	330,809	4,009	54,635	216,243	3,958	▲33.8%	▲34.6%	▲1.3%
フィリピン	57,411	256,917	4,475	51,621	193,747	3,753	▲10.1%	▲24.6%	▲16.1%
ロシア	34,511	148,676	4,308	47,323	176,360	3,727	37.1%	18.6%	▲13.5%
サウジアラビア	33,105	173,983	5,255	41,824	189,190	4,523	26.3%	8.7%	▲13.9%
その他	287,978	1,674,664	5,815	289,719	1,471,196	5,078	0.6%	▲12.1%	▲12.7%
合計	1,838,453	11,048,760	6,010	1,797,466	8,547,788	4,755	▲2.2%	▲22.6%	▲20.9%

資料：SECEX
注：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。

23年末時点の肥育牛価格は前年同期比１割安

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、2023年12月28日時点の肥育牛価格は１キログラム当たり16.82レアル（496円：１レアル=29.50円(注)、前年同期比12.0%安）となった（図２）。23年の肥育牛価格は、と畜頭数増による牛肉の供給量の増加や、中国向け牛肉輸出の一時停止などから下落傾向で推移し、９月には20年５月以来の低水準となった。その後は、牛肉供給量の調整が進むとともに輸出が回復基調となったことから需給が好転し上昇に転じた。しかしながら、肥育牛価格は依然として前年同期を下回っており、肉用牛生産者の増頭意欲が高まっている状況にないとみられる。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年12月末TTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図２　肥育牛価格の推移

資料：CEPEA

（調査情報部　井田　俊二）

豚　肉

米　国

23年１～10月の豚肉輸出量は前年同期比6.9%増

23年12月の繁殖豚飼養頭数、前年同月比3.3%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2023年12月１日時点の豚飼養頭数は7497万1000頭（前年同月比0.0%増）と前年並みで推移した（表１）。内訳を見ると、繁殖豚は599万9000頭（同3.3%減）とやや減少し、肥育豚は6897万3000頭（同0.3%増）となった。また、分娩母豚頭数（９～11月）が減少する中で、１腹当たり産子数の増加により、９～11月の産子数は前年同期並みの3461万7000頭（前年同期比0.2%減）となった。

23年11月の豚肉卸売価格、前年同月比4.2%安

USDAによると、2023年11月の豚肉生産量は、と畜頭数が前年同月を上回ったことで、108万3000トン（前年同月比1.6%増）とわずかに増加した。肥育豚価格は100ポンド当たり56.19米ドル（１キログラム当たり177円：１米ドル＝142.83円(注)、同11.8%安）と、前年同月をかなり大きく下回った（図１）。これは、USDAによると、カナダからのと畜向け生体豚輸入頭数の増加もあり、全体のと畜頭数が増加したことに加えて、国内経済の減速などによる豚肉需要の減少によって需給が緩和したためとされている。同月の豚肉卸売価格は100ポンド当たり86.68米ドル（１キログラム当たり273円、同4.2%安）と、前年同月をやや下回った（図２）。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年12月末TTS相場。

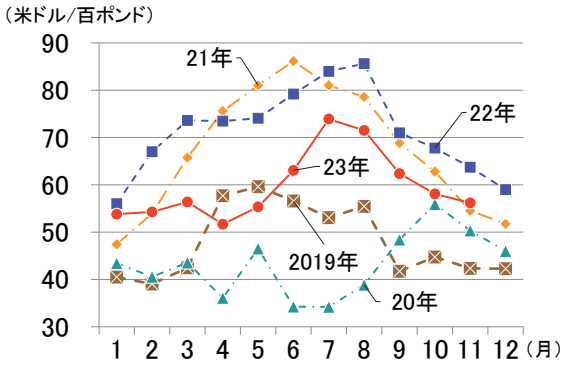
表１　豚飼養頭数の推移

（単位：千頭）

	2020年	21年	22年	23年	前年比（増減率）
総飼養頭数（12月１日時点）	77,312	74,446	74,956	74,971	0.0%
繁殖豚	6,176	6,125	6,204	5,999	▲ 3.3%
肥育豚	71,136	68,321	68,752	68,973	0.3%
50ポンド（23キログラム）未満	21,989	21,594	21,788	21,681	▲ 0.5%
50～119ポンド（23～53キログラム）	19,680	19,005	19,134	19,039	▲ 0.5%
120～179ポンド（54～81キログラム）	15,791	14,374	14,801	14,908	0.7%
180ポンド（82キログラム）以上	13,675	13,348	13,029	13,344	2.4%
分娩母豚頭数（９～11月）	3,165	3,049	3,092	2,968	▲ 4.0%
産子数（９～11月）	34,987	34,123	34,701	34,617	▲ 0.2%
１腹当たり産子数（９～11月）（頭）	11.05	11.19	11.22	11.66	3.9%

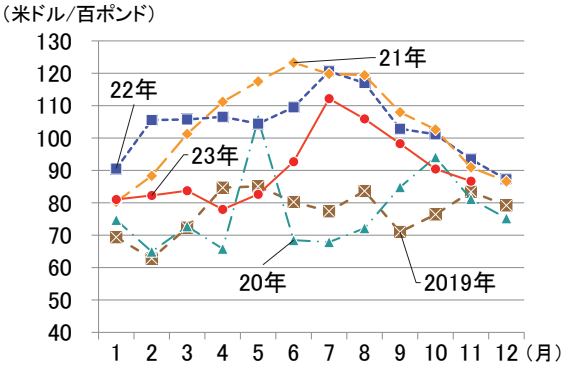
資料：USDA「Hogs and Pigs」
注１：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。
注２：産子数には事故などで死亡した子豚を含まない。

図１　肥育豚価格の推移



資料：USDA「Livestock ＆ Meat Domestic Data」
注：平均的な枝肉（赤身率51～52%、背脂肪厚0.80～0.90インチ）が生産される肥育豚の推定取引価格。

図２　豚肉卸売価格の推移



資料：USDA「Livestock ＆ Meat Domestic Data」
注：カットアウトバリュー。

23年10月の豚肉輸出量、前年同月比5.7%増

USDAによると、2023年10月の豚肉輸出量は25万9600トン（前年同月比5.7%増）、同年１～10月の累計では252万4900トン（前年同期比6.9%増）といずれもかなりの程度増加した（表２）。10月の輸出量を輸出先別に見ると、最大のメキシコ向けは、旺盛な需要から前年同月比16.1%増と大幅に増加した。一方、第２位の日本向けは、カナダ産やブラジル産との競合により、同10.8%減と前年同月をかなりの程度下回った。23年の輸出見込みについてUSDAは、輸出量の約６割を占める中南米などの需要が堅調に推移していることから、前月予測から7000トン引き上げ、306万1000トン（前年比6.4%増）とした。

表２　輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

	2022年10月	23年10月			23年（1～10月）	
			前年同月比（増減率）	シェア		前年同期比（増減率）
メキシコ	91.9	106.7	16.1%	41.1%	945.5	9.3%
日本	38.8	34.6	▲10.8%	13.3%	408.9	▲2.6%
カナダ	20.7	20.8	0.6%	8.0%	207.6	9.3%
韓国	17.9	19.2	7.6%	7.4%	210.5	3.8%
中国・香港	28.4	16.2	▲43.0%	6.2%	211.5	▲8.5%
コロンビア	10.2	14.4	40.3%	5.5%	97.9	▲11.6%
ドミニカ共和国	9.6	10.9	13.2%	4.2%	103.6	18.5%
豪州	3.6	6.8	91.0%	2.6%	73.5	70.9%
その他	24.5	29.9	22.1%	11.5%	265.8	26.2%
合計	245.6	259.6	5.7%	100.0%	2,524.9	6.9%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

（調査情報部　小林　大祐）

メキシコ

24年の豚肉生産量、輸出量ともに前年をわずかに上回る見込み

23年１～９月の豚肉輸出量、前年同期比11.6％減

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）によると、2023年１～９月の豚肉輸出量は13万2700トン（前年同期比11.6％減）とかなり大きく減少した（表１）。輸出先別に見ると、輸出先第１位の日本向けは10万3700トン（同4.8％減）とやや減少した。第２位の米国向けは、ペソ高で推移する為替相場によるメキシコ産豚肉の価格競争力の低下などから、１万9700トン（同27.5％減）と大幅に減少した。一方、韓国向けは堅調な需要により8900トン（同73.7％増）と大幅に増加した。なお、中国向けは同国内での生産回復に伴い22年６月以降、輸出は行われていない。23年の輸出量についてUSDAは、24万5000トン（前年比14.0％減）とかなり大きく減少すると見込んでいる。

表１　輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

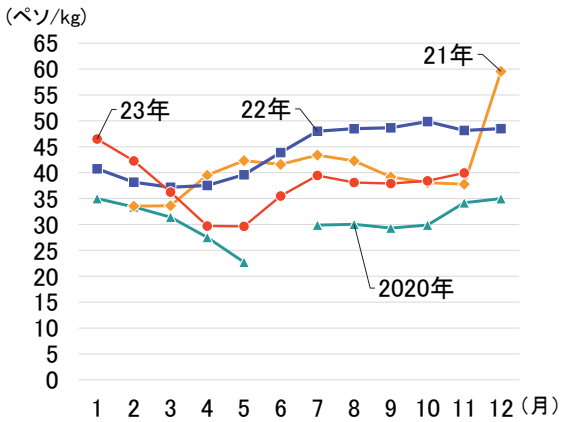
	2022年	22年（１～９月）	23年（１～９月）	前年同期比（増減率）	シェア
日本	142.9	108.9	103.7	▲4.8%	78.2%
米国	34.2	27.1	19.7	▲27.5%	14.8%
韓国	8.1	5.1	8.9	73.7%	6.7%
中国	7.9	7.9	－	▲100.0%	－
その他	1.1	1.0	0.4	▲58.1%	0.3%
合計	194.3	150.1	132.7	▲11.6%	100.0%

資料：「Global Trade Atlas」、メキシコ税関管理局、ITC（International Trade Centre）
注１：製品重量ベース。
注２：HSコード0203。

生体豚価格は23年４月以降、前年を大幅に下回って推移

メキシコ国家情報市場統合システム（SNIIM）によると、2023年11月の生体豚価格は、１キログラム当たり39.95ペソ（373円：１ペソ＝9.35円(注)、前年同月比17.0％安）と大幅に下回った（図）。同価格は、国内の豚肉生産量が増加する中で輸出量の減少などから需給が緩和したことで、23年４月以降、前年同月を大幅に下回って推移

図　生体豚価格の推移



資料：SNIIM
注：2020年６月、21年１月は未発表。

している。また、同年11月の豚枝肉価格は堅調な国内需要などから66.50ペソ（621円、同3.9%高）とやや上回った。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年12月末TTS相場。

24年の豚肉生産量は前年比1.3%増

USDA/FASは2023年８月３日、24年のメキシコの豚肉需給見通しを発表した。これによると、豚肉需要の高まりや飼料価格の低下による生産者の利益率向上などを背景に、24年の豚と畜頭数は2095万頭（前年比0.1%増）と前年並み、豚肉生産量は159万トン（同1.3%増）とわずかな増加が見込まれている（表２）。

同年の豚肉消費量については、国内人口が増加傾向にある中で261万トン（同1.0%増）とわずかな増加が見込まれている。また、同年の豚肉輸出量は生産量が増加する中で、輸出需要が堅調なことから25万トン（同2.0%増）と前年をわずかに上回ると見込まれている。

表２　豚肉需給の推移

（単位：千頭、千トン、%）

		2020年	21年	22年	23年	24年	前年比（増減率）
と畜頭数		19,000	19,700	20,400	20,925	20,950	0.1%
供給量		2,396	2,639	2,822	2,830	2,860	1.1%
	生産量	1,451	1,484	1,523	1,570	1,590	1.3%
	輸入量	945	1,155	1,299	1,260	1,270	0.8%
輸出量		344	319	285	245	250	2.0%
消費量		2,052	2,320	2,537	2,585	2,610	1.0%

資料：USDA/FAS「Gain Report」
注１：2023、24年は予測値。
注２：枝肉重量ベース。

（調査情報部　伊藤　瑞基）

E　U

豚肉生産量は引き続き減少、枝肉価格は下落するも高値で推移

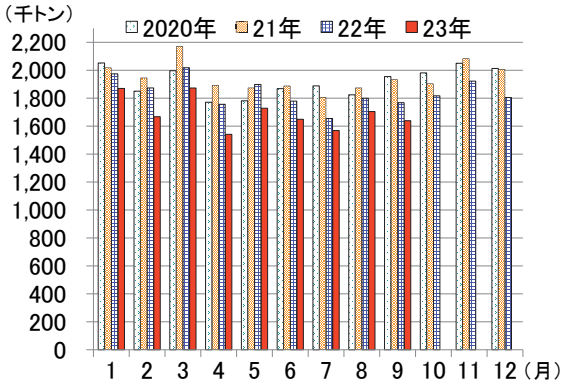
23年９月の豚肉生産量、16カ月連続で前年同月比減

欧州委員会によると、2023年９月の豚肉生産量（EU27カ国）は、164万トン（前年同月比7.3%減）とかなりの程度減少し、16カ月連続で前年同月を下回った（図１）。同月の１頭当たり枝肉重量は91.9キログラム（同0.1%増）と前年同月並みとなったが、と畜頭数が1783万頭（同7.4%減）とかなりの程度減少したことが影響した。EU域内で継続するアフリカ豚熱の発生に加え、アニマルウェルフェアや環境規制などの要因により、引き続き飼養頭数が減少していることか

ら豚肉生産量の減少が続いている。欧州委員会が23年12月に公表した中期見通しによると、厳しい環境規制や輸出需要の減退により、EUの豚肉生産量は今後も減少傾向で推移すると見込まれている。

23年１～９月の豚肉生産量を主要国別に見ると、生産量第１位のスペインは、前年同期比4.6％減の358万1700トンとなった（表１）。現地報道によると、国内の飼養頭数減少を受け、より高値で取引されるよう生産者が出荷を遅らせているため、１頭当たり枝肉重量は増加（９月は前年同月比2.0％増）しているとされる。

図１　豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：枝肉重量ベース。

表１　主要生産国別豚肉生産量の推移

（単位：千トン）

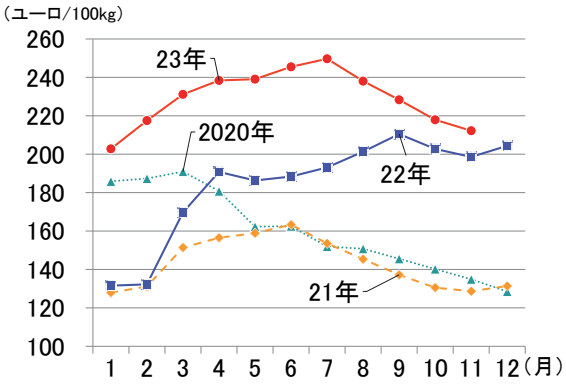
	2022年 9月	23年 9月	前年同月比（増減率）	23年（1～9月）	前年同期比（増減率）
スペイン	392	364	▲ 7.2%	3,582	▲ 4.6%
ドイツ	367	349	▲ 4.7%	3,100	▲ 7.9%
フランス	178	169	▲ 4.9%	1,546	▲ 4.3%
ポーランド	147	145	▲ 1.3%	1,282	▲ 3.9%
オランダ	141	117	▲ 17.3%	1,083	▲ 14.8%
デンマーク	115	105	▲ 9.2%	962	▲ 21.6%
イタリア	102	92	▲ 9.9%	895	▲ 5.5%
その他	326	299	▲ 8.6%	2,787	▲ 7.3%
合計	1,768	1,639	▲ 7.3%	15,235	▲ 7.8%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

23年11月の豚枝肉卸売価格、４カ月連続で前月を下回る

欧州委員会によると、2023年11月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比6.9％高の100キログラム当たり212.21ユーロ（３万3661円：１ユーロ＝158.62円(注)）となった（図２）。同価格は引き続き前年を上回っているが、前月比2.6％安となり、８月から４カ月連続で下落している。た

図２　豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
注：EU（CLASS E）平均価格。

だし、週別の価格動向を見ると、７月中旬以降から続いていた下落傾向はクリスマス需要などから11月に入り落ち着きを見せており、12月11日の週別価格は同211.84ユーロ（３万3602円）と、前週比0.96ユーロ（152円）安にとどまった。欧州委員会の中期見通しによると、短期的には飼料コストの低下による生産コストの下落から、豚枝肉卸売価格の一定程度の下落が予想されるものの、中長期的には生産コストの上昇とEU域内での供給ひっ迫により、同価格は高値で推移すると見込まれている。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年12月末TTS相場。

23年10月の豚肉輸出量、英国を除くすべての主要輸出先が大幅減

欧州委員会によると、2023年10月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、17万1304トン（前年同月比29.4％減）と大幅に減少した（表２）。23年１～10月の累計においても前年同期比27.5％減と大幅に減少し、国別では、英国を除くすべての主要輸出先が大幅に減少した。欧州委員会によると、中国での豚肉生産の供給過多やEU産豚枝肉価格が高値で推移していることにより、アジア向けを中心に輸出量が低下していることを要因に挙げている。また、米国農務省海外農業局（USDA/FAS）によると、最大の輸出先である中国での豚肉生産増による輸入減を受けて、EUでは輸出先の多様化を図っているものの、中国向け輸出量の減少分を補うことができていないとされる。

一方、同期間の英国向け輸出量は、29万57トン（同11.1％増）とかなり大きく増加した。英国農業園芸開発委員会（AHDB）によると、英国産に比べてEU産の豚肉価格が低いことから、英国への輸出量は引き続き増加傾向にあるとされている。

表２　輸出先別豚肉輸出量の推移（EU域外向け）

（単位：トン）

	2022年10月	23年10月	前年同月比（増減率）	輸出割合	23年（１～10月）	前年同期比（増減率）
中国	100,436	44,531	▲ 55.7%	26.0%	482,430	▲ 31.2%
英国	28,754	29,893	4.0%	17.5%	290,057	11.1%
日本	26,278	20,053	▲ 23.7%	11.7%	244,922	▲ 22.8%
韓国	15,405	15,627	1.4%	9.1%	153,818	▲ 28.4%
フィリピン	8,641	11,012	27.4%	6.4%	93,920	▲ 50.4%
豪州	7,435	5,824	▲ 21.7%	3.4%	59,162	▲ 43.2%
その他	55,530	44,364	▲ 20.1%	25.9%	426,712	▲ 32.0%
合計	242,479	171,304	▲ 29.4%	100.0%	1,751,021	▲ 27.5%

資料：「Global Trade Atlas」
注１：製品重量ベース。
注２：HSコードは0203。

（調査情報部　藤岡　洋太）

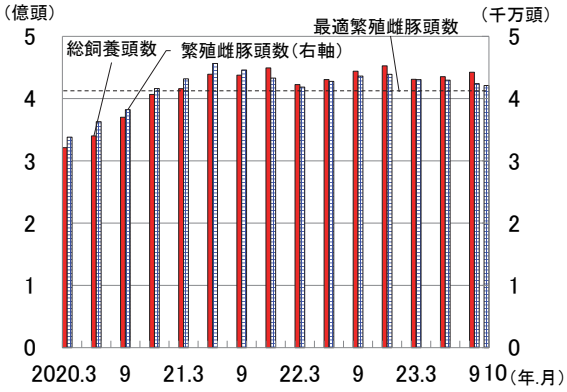
中　国

豚と畜頭数は増加、豚肉価格は安値で推移

23年10月末の繁殖雌豚頭数は減少も適切水準を上回る

中国農業農村部によると、2023年10月末時点の繁殖雌豚頭数は4210万頭（前年同月比3.9%減）と前年同月をやや下回った（図１）。同頭数は３月末以降、減少傾向にあるが、同月も農業農村部が適切な水準としている4100万頭程度を2.7%上回っている状況にある。

図１　豚飼養頭数の推移

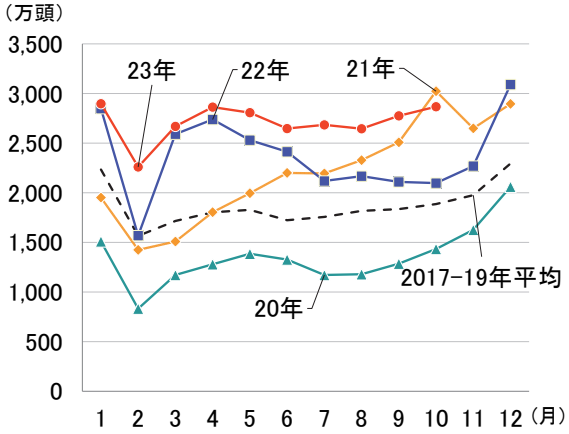


資料：中国国家統計局
注：四半期ごとの公表値。

23年10月の豚と畜頭数、引き続き前年同月を上回る

2023年10月の豚と畜頭数は、2867万頭（前年同月比36.7%増）と前年同月を大幅に上回った（図２）。中国農業農村部によると、年明け２月の春節に向けて安定的な豚肉の供給を確保するため、と畜頭数の増加が続いているとされる。

図２　豚と畜頭数の推移

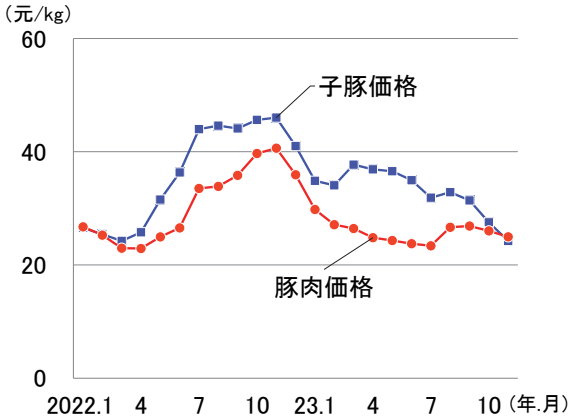


資料：中国農業農村部
注：年間２万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約３割）。

23年11月の豚肉価格は引き続き安値で推移

豚肉価格は2023年10月から２カ月連続で下落しており、11月の豚肉価格は前月比４%安の１キログラム当たり25元（506円：１元＝20.23円(注)）となった（図３）。中国農業農村部によると、年末年始や春節の連休需要に向けて同国南部を中心とした春節向け加工肉製造が最盛期を迎え、一定の消費の回復

図３　豚肉および子豚価格の推移



資料：中国農業農村部

は見られるものの、供給量が消費量を上回っているため、豚肉価格は下落傾向にあるとしている。また、肥育豚の頭数が十分なことから、この先数カ月の豚肉供給量の大幅な減少は想定し難いとし、当面、豚肉価格が上昇する可能性は低いとしている。現地報道によると、豚肉価格の低迷による養豚企業の収益性悪化から、繁殖雌豚のと畜向け出荷が進んでいることも供給過剰の一因とされている。

また、11月の子豚価格は、同11.9%安の同24.2元（490円）となった。現地報道によると、豚肉の供給過剰による豚肉価格の低迷により、生産者の子豚導入意欲は乏しいとされている。

このように豚肉価格の低迷が続く中で、中国国家発展改革委員会は11月29日、23年第３回目となる豚肉の国家備蓄による買い付け（対象数量１万トン）を実施した。しかし、今回は対象数量が限られたこともあり、その後の豚肉価格に大きな変動は見られていない。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年12月末TTS相場。

23年１～11月の豚肉輸入量は前年同期を下回る

2023年１～11月の豚肉輸入量は、145万190トン（前年同期比6.1%減）と前年同期をかなりの程度下回った（表）。特に10、11月の輸入量は前年の５～６割の水準に落ち込んでいる。現地報道によると、国内豚肉価格が安値で推移していることで大量の冷凍豚肉在庫を抱えているため、輸入品の価格優位性が低下していることが要因とされている。一部の養豚・加工企業の中には、従来、輸入豚肉を用いてきた加工製品の原料を国産豚肉に切り替えるなど、厳しい販売環境の中で在庫負担を軽減する動きも出てきているとされている。繁殖雌豚頭数が一定水準を超過する状況が続く中で、今後の在庫の推移や価格の動向、国家備蓄の取り組みなどが注目されている。

表　主要輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：万トン）

	2019年	20年	21年	22年	23年（１～11月）	前年同期比（増減率）
ブラジル	22.2	48.1	54.6	41.7	37.7	0.2%
スペイン	38.2	93.4	109.8	46.9	35.4	▲ 14.6%
カナダ	17.2	41.1	23.6	11.4	12.6	30.0%
米国	24.5	69.6	39.8	12.6	11.8	5.6%
オランダ	16.0	26.5	27.7	12.3	11.4	9.4%
デンマーク	16.4	36.0	35.2	19.4	10.9	▲ 35.0%
その他	64.9	115.8	66.8	30.1	25.2	▲ 7.6%
合計	199.4	430.4	357.4	174.4	145.0	▲ 6.1%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

（調査情報部　海老沼　一出）

鶏　肉

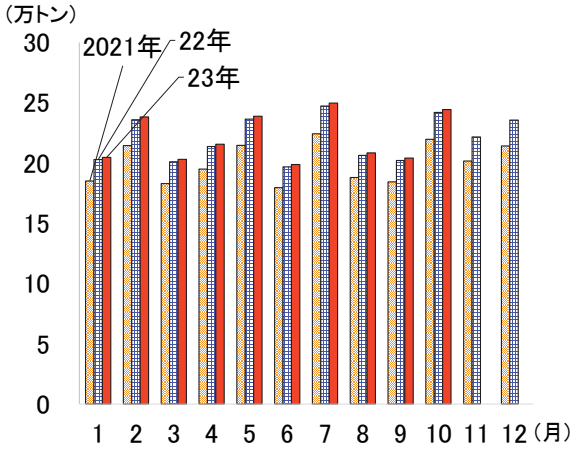
タ　イ

鶏肉卸売価格は前年を下回って推移

23年１～10月の鶏肉生産量は前年同期比1.0％増

タイ農業協同組合省農業経済局によると、2023年１～10月の鶏肉生産量は220万5215トン（前年同期比1.0％増）となった（図１）。また、24年の鶏肉生産について現地関係者によると、最近の鶏肉価格の下落を受けて生産者の規模拡大意欲が乏しいとされる中で、飼料価格の下落や観光業などからの需要回復が期待されることで、23年と同様に前年比１％程度の増加が予測されている。

図１　鶏肉生産量の推移



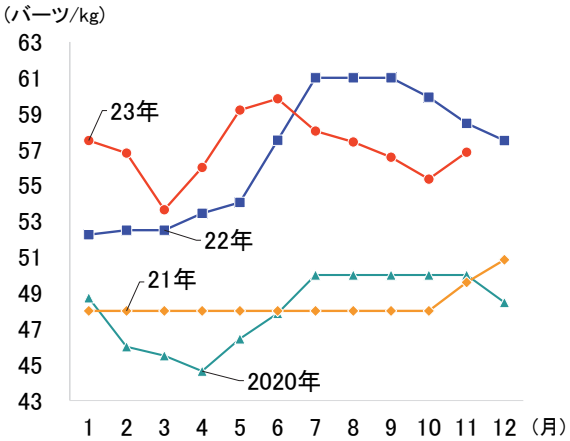
資料：タイ農業協同組合省農業経済局

23年11月の鶏肉卸売価格、下落傾向も高い水準を維持

2023年11月の鶏肉卸売価格は、前年同月比2.8％安の１キログラム当たり56.9バーツ（240円：１バーツ＝4.21円(注1)）となった（図２）。アフリカ豚熱の影響から豚肉供給量が減少し鶏肉需要が高まった22年を下回って推移しているが、引き続き高い水準を維持している。現地関係者によると、鶏肉需要の回復が期待される一方で、豚肉供給量の増加も予測されることから、タイの鶏肉卸売価格の見通しは不確実な状況が続くとみられている。

（注１）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年12月末TTS相場。

図２　鶏肉卸売価格の推移



資料：タイ農業協同組合省農業経済局

23年１～10月の冷凍鶏肉輸出量は前年を大幅に上回る

2023年10月の冷凍鶏肉輸出量は、４万774トン（前年同月比27.4％増）と大幅に増加し、同年１～10月の累計でも39万7447トン（前年同期比39.3％増）と大幅に増加した（表１）。

現地関係者によると、タイの鶏肉輸出企業各社は鶏肉調製品の輸出が落ち込む中で、冷凍鶏肉の輸出を増やしているとされ、中でも高病原性鳥インフルエンザにより鶏肉需要が増加している中国および香港、関税引き下げを実施している韓国(注2)向けの伸びが目立っている。

(注2)海外情報「2023年の鶏肉輸入量は過去最高水準に増加(韓国)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003612.html)を参照されたい。

表1　輸出先別冷凍鶏肉輸出量の推移

(単位:万トン)

	2019年	20年	21年	22年	23年(1～10月)	前年同期比(増減率)
日本	12.2	12.8	14.3	13.6	13.8	22.9%
マレーシア	4.1	4.1	4.7	7.2	7.5	31.5%
中国	7.6	11.5	10.4	8.5	9.8	43.1%
香港	0.5	0.9	1.0	1.0	3.4	266.7%
韓国	1.1	0.8	1.3	1.2	2.7	150.2%
その他	4.8	3.3	3.2	3.3	2.5	▲ 7.4%
合計	30.3	33.3	34.9	34.9	39.7	39.3%

資料:「Global Trade Atlas」
注:HSコードは020714。

23年1～10月の鶏肉調製品の輸出量は前年を下回る

2023年1～10月の鶏肉調製品輸出量は、49万5263トン(前年同期比10.7%減)と前年同期をかなりの程度下回った(表2)。このうち、日本向けは23万9373トン(同9.9%減)と前年同期をかなりの程度下回り、欧州(オランダおよび英国)向けも前年同期を下回っている。現地関係者によると、主要輸出先での外食需要の低迷が要因としており、今後、需要の回復が見込まれるものの、好調であった22年の水準には達しないとみられている。

表2　輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

(単位:万トン)

	2019年	20年	21年	22年	23年(1～10月)	前年同期比(増減率)
日本	29.5	29.2	28.8	31.1	23.9	▲ 9.9%
英国	16.5	14.2	13.6	17.3	13.3	▲ 7.6%
オランダ	3.6	2.8	3.9	5.6	3.4	▲ 31.5%
韓国	3.0	2.4	2.1	3.1	2.5	▲ 9.7%
その他	6.4	6.1	6.7	8.1	6.4	▲ 6.3%
合計	59.0	54.6	55.0	65.2	49.5	▲ 10.7%

資料:「Global Trade Atlas」
注:HSコードは160232。

(調査情報部　海老沼　一出)

牛乳・乳製品

ＥＵ

23年10月の生乳出荷量は減少、乳価は上向く

23年10月の生乳出荷量、２カ月連続で前年同月を下回る

欧州委員会によると、2023年10月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1150万5000トン（前年同月比1.7%減）と２カ月連続で前年同月を下回った（図１）。

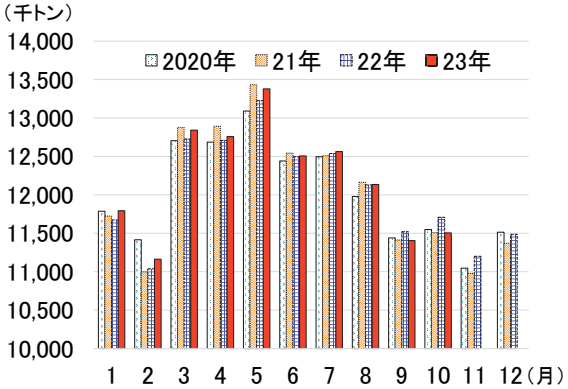
主要生産国別に見ると、ポーランド（同1.5%増）は前年同月を上回った一方、ドイツ（同0.0%減）、フランス（同4.5%減）、オランダ（同2.4%減）、イタリア（同2.0%減）およびアイルランド（同12.6%減）はいずれも前年同月を下回った。中でもオランダは２カ月連続で前年同月を下回り、現地報道によると、同国で９月に発生したブルータング（注１）の影響が継続しているとされ、24年の天候が23年を上回る干ばつや暑熱を伴う場合は、さらに影響が長引く可能性があるとされる。

（注１）欧州委員会の動物疾病情報システム（ADIS）によると、ベルギー、ドイツおよびスペインでも確認が報告されている。海外情報「英国で16年ぶりに牛のブルータングが発生（英国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003657.html）も参照されたい。

23年10月の生乳取引価格、前年同月を下回るも下げ止まり感

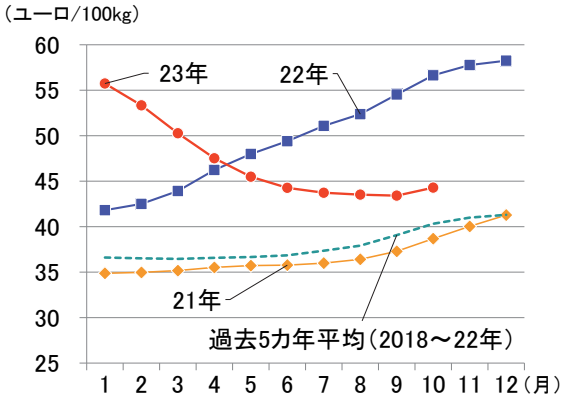
欧州委員会によると、2023年10月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり44.29ユーロ（7025円：１ユーロ＝158.62円（注２）、前年同月比21.8%安）と前年同月を大幅に下回った（図２）。ただし、前月比では2.0%高と10カ月ぶりに前月をわずかに上回り、下げ止まりの傾向を見せている。米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、生乳出荷量が減少する中で、乳業各社は一定量の生乳を確保するため、生乳取引価格を維持する必要性が生じているとされる。

図１　生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。

図２　生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」
注１：直近月は推定値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。

（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年12月末TTS相場。

23年第１～３四半期の乳製品輸出量は前年同期比増

欧州委員会によると、2023年第１～３四半期（１～９月）のEU域外向け乳製品輸出量は、主要乳製品４品目すべてで前年同期を上回った（表）。中でも、脱脂粉乳は同四半期の生産量が113万4000トン（前年同期比4.2%減）と前年同期をやや下回ったが、輸出量は同19.3%増と大きく伸びている。現地報道によると、競合する米国では、同年１～10月の脱脂粉乳生産量が93万4000トン（同5.8%減）となったことで、EU産への需要が高まったことを要因に挙げている。

表　主な乳製品の輸出量の推移

（単位：千トン）

バター				脱脂粉乳			
輸出先	2022年（１～９月）	23年（１～９月）	前年同期比（増減率）	輸出先	22年（１～９月）	23年（１～９月）	前年同期比（増減率）
英国	43	34	▲ 20.7%	アルジェリア	78	121	54.3%
米国	32	34	6.8%	中国	63	63	▲ 0.1%
サウジアラビア	8	13	70.3%	エジプト	31	36	18.8%
中国	10	12	20.9%	サウジアラビア	20	33	64.7%
韓国	8	9	9.9%	マレーシア	21	29	34.5%
モロッコ	3	6	115.1%（約2.2倍）	ベトナム	13	26	96.1%（約2.0倍）
バーレーン	0	6	1566.8%（約16.7倍）	イエメン	21	26	23.3%
その他	70	77	10.6%	その他	279	294	5.5%
合計	173	192	10.4%	合計	526	627	19.3%

（単位：千トン）

チーズ				全粉乳			
輸出先	22年（１～９月）	23年（１～９月）	前年同期比（増減率）	輸出先	22年（１～９月）	23年（１～９月）	前年同期比（増減率）
英国	322	321	▲ 0.3%	オマーン	42	36	▲ 15.0%
米国	97	92	▲ 4.9%	アルジェリア	6	25	306.9%（約4.1倍）
日本	88	76	▲ 13.9%	英国	12	15	17.5%
スイス	54	54	▲ 0.1%	ナイジェリア	3	12	329.5%（約4.3倍）
韓国	41	43	5.0%	中国	16	11	▲ 33.8%
サウジアラビア	34	31	▲ 10.8%	ドミニカ共和国	6	8	39.1%
中国	23	26	12.3%	クウェート	10	8	▲ 24.4%
その他	351	384	9.4%	その他	90	96	6.9%
合計	1,012	1,028	1.6%	合計	185	210	13.1%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは、バターが0405.10、脱脂粉乳が0402.10、チーズが0406、全粉乳が0402.21と0402.29。

（調査情報部　渡辺　淳一）

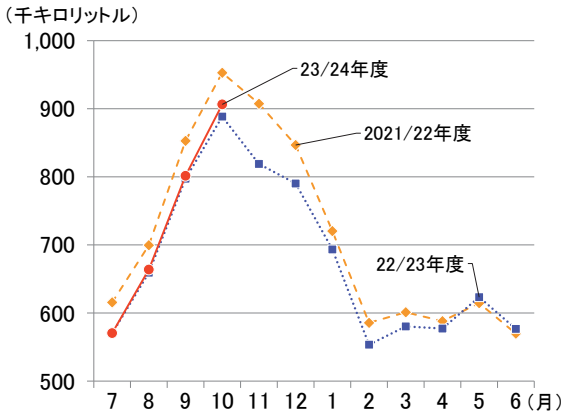
豪　州

生乳生産量は前年同期をわずかに上回る水準で推移

23年10月の生乳生産量、約２年ぶりに90万キロリットルを上回る

デイリー･オーストラリア（DA）によると、2023年10月の生乳生産量は、前年同月比2.0％増の90万6400キロリットル（93万3592トン相当）となった（図１）。豪州の生乳生産の最盛期である９～11月の月間生乳生産量が90万キロリットルを上回るのは、22年11月以来、約２年ぶりとなる。この結果、23/24年度（７月～翌６月）の10月までの累計生乳生産量は、前年同期比0.9％増の294万2200万キロリットル（303万466トン相当）となった。前々年度（21/22年度）の同期間との比較では5.7％減となるが、酪農家戸数の減少や労働力不足の影響がある中で、高い生乳生産者価格が増産を後押ししている。

図１　生乳生産量の推移



資料：DA
注：年度は７月～翌６月。

23/24年度の生乳生産量についてDAは、23年12月時点の見通しとして、前年度並みの812万9000キロリットル（837万2870トン相当）としている。この要因としてDAは、（１）エルニーニョ現象の発生により乾燥した気候が予想される中で、生乳生産量の過半を占めるビクトリア州を含む豪州南部地域で一定の降雨が記録され、当面の牧草確保の見通しが立ったこと（２）酪農家戸数の減少や労働力不足は続くものの、前述の状況もあり、23年10月の乳用牛と畜頭数が顕著に減少していること（３）未経産牛の生体輸出が23年９月までの12カ月間で前年同期比26％減となっており、今後、搾乳頭数の増加が見込めることーを挙げている。

23年10月の乳製品輸出量、主要乳製品減少の中でチーズのみ増加

DAが発表した2023年10月の主要乳製品４品目の輸出量は、品目別に大きく異なる動きを見せた（表、図２）。

脱脂粉乳は、インドネシアやマレーシア向けが好調に推移したものの、中国向けが大きく減少したことを受け、前年同月比で大幅に減少した。全粉乳は、タイ向けは好調に推移したものの、中国をはじめとした他のアジア諸国やアラブ首長国連邦向けが減少したことを受け、大幅に減少した。バターおよびバターオイルは、中国をはじめとするアジア向けの減少が響いて大幅に減少したのに対し、チーズは、輸出先第１位の日本向けは減少したものの、第２位の中国やマレーシア向けの増加などを受け、かなり大きく増加した。

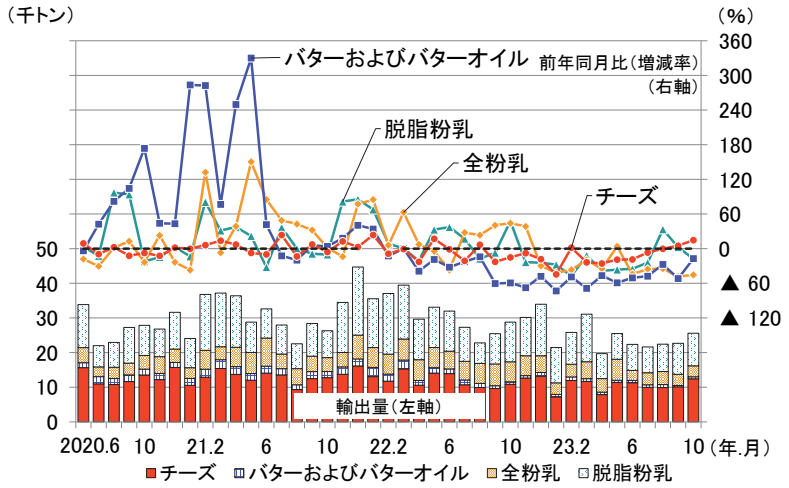
表　乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2022年10月	23年10月	前年同月比（増減率）	23/24年度（7～10月）	前年同期比（増減率）
脱脂粉乳	11,461	9,413	▲ 17.9 %	33,689	▲ 6.2 %
全粉乳	5,784	3,160	▲ 45.4 %	13,629	▲ 41.2 %
バターおよびバターオイル	717	593	▲ 17.3 %	2,574	▲ 37.3 %
チーズ	10,826	12,416	14.7 %	42,380	3.2 %

資料：DA
注：製品重量ベース。

図２　乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA
注：製品重量ベース。

（調査情報部　平山　宗幸）

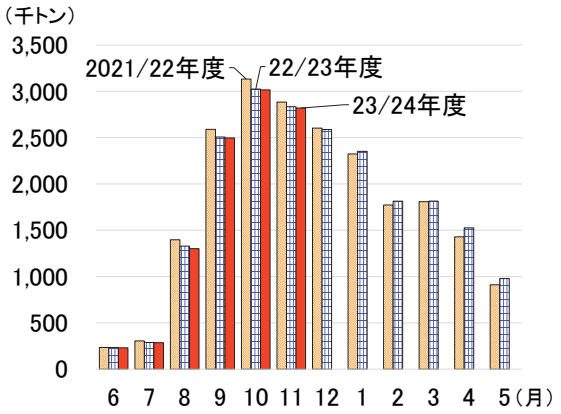
N　Z

GDT価格が続伸、23/24年度生産者支払乳価は引き上げ

23年11月の生乳生産量、天候要因から前年同月を下回る

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2023年11月の生乳生産量は282万トン（前年同月比0.5%減）とわずかに減少した（図１）。この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、北島での日照不足による牧草生育の不良を挙げ、12月の牧草生育状況もエルニーニョ現象の発生により、さらに悪化していると伝えている。特に主要生乳生産地帯である北島のワイカトやノースランドの広範囲で、過去２週間の降雨量が５ミリ以下と非常に乾燥した気候にあり、今後の生乳生産への影響が危惧（きぐ）されている。

図１　生乳生産量の推移



資料：DCANZ
注：年度は６月～翌５月。

23年11月の乳製品輸出量、主要４品目が前年同月比増

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2023年11月の乳製品輸出量は、主要４品目すべてで前年同月を上回った（表、図２）。品目別では、脱脂粉乳は最大の輸出先である中国向けが減少する中、主要輸出先のインドネシア向けの増加からかなりの程度増加した。全粉乳は、最大の輸出先である中国向けが、COVID－19の拡大によって需要が減少した前年同月の反動からかなり大きく

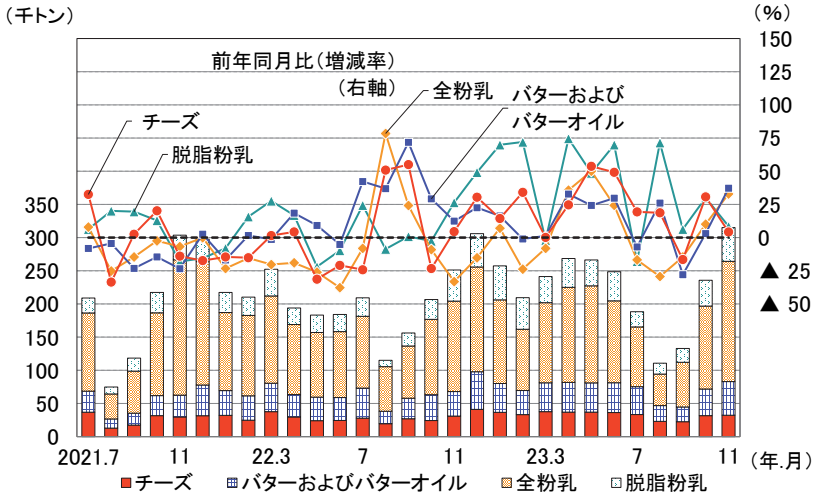
表　乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2022年11月	23年11月	前年同月比（増減率）	23/24年度（７～11月）	前年同期比（増減率）
脱脂粉乳	46,848	50,822	8.5%	149,933	12.0%
全粉乳	136,334	181,205	32.9%	510,968	1.4%
バターおよびバターオイル	36,942	50,681	37.2%	178,846	4.7%
チーズ	30,955	32,265	4.2%	142,667	10.3%

資料：Stats NZ
注１：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。
注２：製品重量ベース。
注３：年度は７月～翌６月。

図２　乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ
注：製品重量ベース。

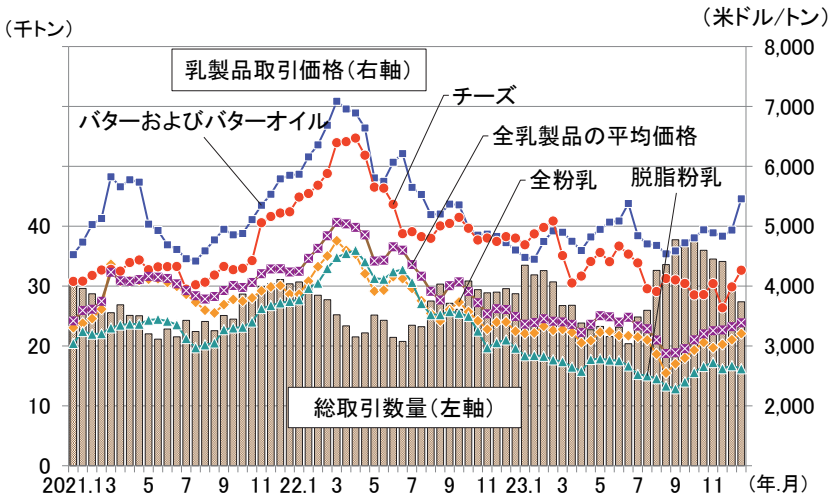
増加したほか、上位輸出先であるマレーシア向けが前年同月比で２倍程度増加したことを受けて大幅に増加した。バターおよびバターオイルも最大の輸出先である中国向けが大幅に増加したことで全体でも大幅に増加した。チーズは豪州、日本、韓国向けが減少する中、中国向けの大幅な増加からやや増加した。

23年12月下旬のGDT価格、バターなど主要３品目で上昇

2023年12月19日開催のGDT(注1)平均取引価格は、脱脂粉乳を除く主要３品目で前回開催（12月５日）時の価格を上回った（図３）。また、全乳製品の平均取引価格は3388米ドル（48万3908円：１米ドル＝142.83円(注2)、前回比2.0％高）と続伸し、同年９月以降は上昇基調にある。このような中、NZの乳業最大手のフォンテラ社は12月７日、23/24年度（６月～翌５月）の生産者支払乳価を生乳の固形分(注3)１キログラム当たり平均7.5NZドル（689円：1NZドル＝91.91円(注2)）に引き上げると発表した。前回公表時（23年10月９日）から同0.25NZドル（23円）の上乗せとなる。引き上げの理由について同社のハレル最高経営責任者は、最近のGDT価格の上昇を踏まえたものとし、同社の業績が好調に推移していることなどを挙げた。

（注１）グローバルデイリートレード。月２回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年12月末TTS相場。
（注３）乳脂肪分および乳タンパク質。

図３　GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

（調査情報部　工藤　理帆）

飼料穀物

世　界

世界のトウモロコシ生産量は上方修正、引き続き過去最大の生産見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、2023年12月８日、23/24年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は12億2207万トン（前年度比5.6%増）と前月から128万トン上方修正された。今期は米国の増産などにより過去最大の生産量が見込まれている。主要生産国である米国、ブラジル、中国はいずれも前月から据え置かれたが、ウクライナ、ロシア、EUなどの上方修正が反映された。

輸入量は、世界全体で１億9153万トン（同11.3%増）と前月から166万トン上方修正された。地域別では、メキシコ（80万トン）や東南アジア（10万トン）などが前月から上方修正されている。

消費量は、世界全体で12億695万トン（同3.4%増）と前月から192万トン上方修正された。地域別では、ロシア（70万トン）、メキシコ（30万トン）、EU（20万トン）などが前月から上方修正された。

輸出量は、世界全体では２億146万トン（同11.3%増）と前月から184万トン上方修正された。ウクライナ（100万トン）、米国（63万トン）などが前月から上方修正された。

この結果、期末在庫は３億1522万トン（同5.0%増）と前月から23万トン上方修正され、前年度からやや増加が見込まれている。

現地報道によると、通常、12月公表の予測値には大きな変化が見られないとした上で、南米のトウモロコシ生産量が民間予測を上回っていることから、ブラジルで報じられている乾燥気候の影響を踏まえ、引き続き生産動向に注視が必要とされている。

表　主要国のトウモロコシの需給見通し（2023年12月８日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

区　　分		2021/22年度	22/23年度（推計値）	23/24年度（11月予測）	23/24年度（12月予測）	23/24年度 前年度比（増減率）
米　　国						
	期首在庫	31.36	34.98	34.58	34.58	▲ 1.1%
	生産量	382.89	348.37	386.97	386.97	11.1%
	輸入量	0.62	0.98	0.64	0.64	▲ 34.7%
	消費量	317.09	307.55	314.72	314.72	2.3%
	輸出量	62.80	42.20	52.71	53.34	26.4%
	期末在庫	34.98	34.58	54.75	54.12	56.5%
アルゼンチン						
	期首在庫	1.18	1.80	1.11	1.11	▲ 38.3%
	生産量	49.50	34.00	55.00	55.00	61.8%
	輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
	消費量	14.20	11.70	14.10	14.10	20.5%
	輸出量	34.69	23.00	41.00	41.00	78.3%
	期末在庫	1.80	1.11	1.01	1.01	▲ 9.0%
ブラジル						
	期首在庫	4.15	3.97	10.27	10.27	2.6倍
	生産量	116.00	137.00	129.00	129.00	▲ 5.8%
	輸入量	2.60	1.30	1.20	1.20	▲ 7.7%
	消費量	70.50	75.00	77.50	77.50	3.3%
	輸出量	48.28	57.00	55.00	55.00	▲ 3.5%
	期末在庫	3.97	10.27	7.97	7.97	▲ 22.4%
ウクライナ						
	期首在庫	0.83	7.80	2.41	2.80	▲ 64.1%
	生産量	42.13	27.00	29.50	30.50	13.0%
	輸入量	0.02	0.02	0.02	0.02	0.0%
	消費量	8.20	4.90	5.50	5.50	12.2%
	輸出量	26.98	27.12	20.00	21.00	▲ 22.6%
	期末在庫	7.80	2.80	6.43	6.82	2.7倍
E　　U						
	期首在庫	7.83	11.39	7.18	7.23	▲ 36.5%
	生産量	71.55	52.40	59.80	60.10	14.7%
	輸入量	19.74	23.15	24.50	24.50	5.8%
	消費量	81.70	75.50	80.00	80.20	6.2%
	輸出量	6.03	4.21	4.10	4.20	▲ 0.2%
	期末在庫	11.39	7.23	7.38	7.43	2.8%
中　　国						
	期首在庫	205.70	209.14	206.04	206.04	▲ 1.5%
	生産量	272.55	277.20	277.00	277.00	▲ 0.1%
	輸入量	21.88	18.71	23.00	23.00	22.9%
	消費量	291.00	299.00	304.00	304.00	1.7%
	輸出量	0.00	0.01	0.02	0.02	2.0倍
	期末在庫	209.14	206.04	202.02	202.02	▲ 2.0%
世界計						
	期首在庫	292.95	310.51	299.22	300.10	▲ 3.4%
	生産量	1217.27	1157.24	1220.79	1222.07	5.6%
	輸入量	184.45	172.14	189.87	191.53	11.3%
	消費量	1199.70	1167.66	1205.03	1206.95	3.4%
	輸出量	206.59	180.98	199.62	201.46	11.3%
	期末在庫	310.51	300.10	314.99	315.22	5.0%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注：各国の穀物年度　世界、米国：９月～翌８月／ウクライナ、EU、中国：10月～翌９月／アルゼンチン、ブラジル：３月～翌２月。

（調査情報部　横田　徹）

世界の大豆期末在庫は下方修正も、引き続き前年度を上回る

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2023年12月８日、23/24年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界の生産量は３億9888万トン（前年度比6.5%増）と前月から154万トン下方修正された。これは、最大の生産

表　主要国の大豆需給見通し（2023年12月８日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国　名		2021/22年度	22/23年度（推計値）	23/24年度（11月予測）	23/24年度（12月予測）	23/24年度 前年度比（増減率）
米国						
	期首在庫	6.99	7.47	7.30	7.30	▲ 2.3%
	生産量	121.53	116.22	112.39	112.39	▲ 3.3%
	輸入量	0.43	0.67	0.82	0.82	22.4%
	消費量	59.98	60.20	62.60	62.60	4.0%
	輸出量	58.57	54.21	47.76	47.76	▲ 11.9%
	期末在庫	7.47	7.30	6.68	6.68	▲ 8.5%
ブラジル						
	期首在庫	29.58	27.60	33.44	35.35	28.1%
	生産量	130.50	160.00	163.00	161.00	0.6%
	輸入量	0.54	0.15	0.45	0.45	200.0%
	消費量	50.71	53.10	55.75	55.75	5.0%
	輸出量	79.06	95.51	97.50	99.50	4.2%
	期末在庫	27.60	35.35	39.69	37.60	6.4%
アルゼンチン						
	期首在庫	25.06	23.90	17.21	17.21	▲ 28.0%
	生産量	43.90	25.00	48.00	48.00	92.0%
	輸入量	3.84	9.06	5.70	5.70	▲ 37.1%
	消費量	38.83	30.32	34.50	34.50	13.8%
	輸出量	2.86	4.19	4.60	4.60	9.8%
	期末在庫	23.90	17.21	24.56	24.56	42.7%
中国						
	期首在庫	30.86	29.25	33.79	33.79	15.5%
	生産量	16.40	20.28	20.50	20.50	1.1%
	輸入量	90.50	100.85	100.00	102.00	1.1%
	消費量	87.90	95.00	98.00	98.00	3.2%
	輸出量	0.10	0.09	0.10	0.10	11.1%
	期末在庫	29.25	33.79	33.69	35.69	5.6%
世界計						
	期首在庫	100.26	98.00	100.31	101.92	4.0%
	生産量	360.43	374.39	400.42	398.88	6.5%
	輸入量	155.52	164.78	165.75	167.65	1.7%
	消費量	314.50	313.41	329.47	329.50	5.1%
	輸出量	154.25	171.12	168.29	170.29	▲ 0.5%
	期末在庫	98.00	101.92	114.51	114.21	12.1%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注１：各国の穀物年度　米国：９月～翌８月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌９月。
注２：消費量は搾油仕向量である。

国であるブラジルでは、主産地であるマットグロッソ州南部やブラジル北東部での高温と乾燥が報告されており、前月から200万トン下方修正されたことが影響した。

輸入量は、世界全体で１億6765万トン（同1.7％増）と前月から190万トン上方修正された。最大の輸入国である中国は、主要輸出業者による同国向け出荷が好調なことを受けて、前回から200万トン上方修正された。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で３億2950万トン（同5.1％増）と前月から３万トン上方修正された。このうち、最大の消費国である中国は9800万トン（同3.2％増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で１億7029万トン（同0.5％減）と前月から200万トン上方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジルが前月から200万トン上方修正された。

この結果、期末在庫は１億1421万トン（同12.1％増）と前月から30万トン下方修正されたが、引き続き前年度水準をかなり大きく上回っている。

現地情報によると、通常、12月公表の予測値には大きな変化が見られないとした上で、今回、ブラジルの生産量が下方修正されたものの、依然として民間予測を上回っていることから、引き続き同国の生産動向に注視が必要とされている。

（調査情報部　横田　徹）

米　国

米国のトウモロコシ生産量は過去最大、輸出量も前年度から大幅増の見込み

USDA/WAOBは2023年12月　8　日、23/24年度（９月～翌８月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

米国内生産量は、152億3400万ブッシェル（３億8696万トン(注1)、前年度比11.1％増）と前月から据え置かれた。乾燥気候から当初は一部地域で単収の落ち込みが懸念されたものの、天候の好転や収穫面積の増加などから過去最大の生産量が見込まれている。

消費量は、123億9000万ブッシェル（３億1472万トン、同2.3％増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、21億ブッシェル（5334万トン、同26.4％増）と前月から上方修正され、前年度から大幅な増加が見込まれている。

期末在庫は、輸出量の増加を受けて前月から2500万ブッシェル（635万トン）下方修正の21億3100万ブッシェル（5413万トン、同56.6％増）とされたが、引き続き前年度から大幅な増加が見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、14.7％（同4.8ポイント増）と前月から0.2ポイント下落しつつも、前年度を上回る水準が見込まれている。

生産者平均販売価格は、１ブッシェル当たり4.85米ドル（693円。１キログラム当たり27.3円：１米ドル＝142.83円(注2)、同25.8％安）と前年度から大幅な下落が見込まれている。

（注１）１ブッシェルを約25.401キログラム、１エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年12月末TTS相場。

表　米国のトウモロコシの需給見通し（2023年12月８日米国農務省公表）

区　　分	ー単位ー	2021/22年度	22/23年度（推計値）	23/24年度			
				（11月予測）	（12月予測）	参考（換算値）	前年度比（増減率）
作付面積	（百万エーカー）	93.3	88.6	94.9	94.9	38.41（百万ヘクタール）	7.1%
収穫面積	（百万エーカー）	85.3	79.1	87.1	87.1	35.25（百万ヘクタール）	10.1%
単収	（ブッシェル/エーカー）	176.7	173.4	174.9	174.9	10.98（トン/ヘクタール）	0.9%
期首在庫	（百万ブッシェル）	1,235	1,377	1,361	1,361	34.57（百万トン）	▲1.2%
生産量	（百万ブッシェル）	15,074	13,715	15,234	15,234	386.96（百万トン）	11.1%
輸入量	（百万ブッシェル）	24	39	25	25	0.64（百万トン）	▲35.9%
総供給量	（百万ブッシェル）	16,333	15,130	16,621	16,621	422.19（百万トン）	9.9%
国内消費量	（百万ブッシェル）	12,483	12,108	12,390	12,390	314.72（百万トン）	2.3%
飼料など向け	（百万ブッシェル）	5,726	5,549	5,650	5,650	143.52（百万トン）	1.8%
食品・種子・その他工業向け	（百万ブッシェル）	6,757	6,558	6,740	6,740	171.20（百万トン）	2.8%
うちエタノール向け	（百万ブッシェル）	5,320	5,176	5,325	5,325	135.26（百万トン）	2.9%
輸出量	（百万ブッシェル）	2,472	1,661	2,075	2,100	53.34（百万トン）	26.4%
総消費量	（百万ブッシェル）	14,956	13,769	14,465	14,490	368.06（百万トン）	5.2%
期末在庫	（百万ブッシェル）	1,377	1,361	2,156	2,131	54.13（百万トン）	56.6%
期末在庫率	（%）	9.2	9.9	14.9	14.7		4.8ポイント増
生産者平均販売価格	（米ドル/ブッシェル）	6.00	6.54	4.85	4.85	27.3（円/kg）	▲25.8%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注１：年度は各年９月～翌８月。
注２：１ブッシェルは約25.401キログラム、１エーカーは約0.4047ヘクタール。

（調査情報部　横田　徹）

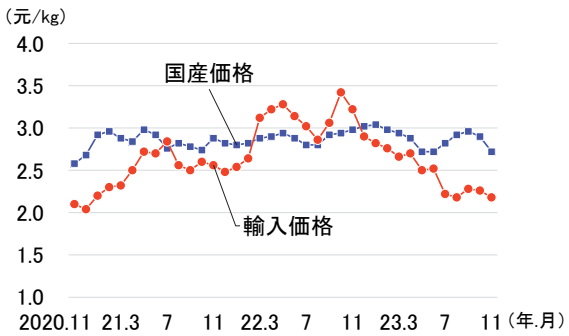
中　国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

国産トウモロコシ価格、需給の緩和から弱含みでの推移と予想

中国農業農村部は2023年12月25日、「農産物需給動向分析月報（2023年11月）」を公表した。この中で、同年11月の国産トウモロコシ価格は前月比6.2%安と前月に続き下落した（図１）。同月の国内のトウモロコシ需給を見ると、供給面では年末に向け、生産者が余剰在庫の出荷意欲を高めているなど安定した状況とされる。一方、需要面では養豚業の赤字から飼料向け需要が限られ、また、コーンスターチ製造など加工業界の収益性が改善されていないことから、取引は落ちついた状況とされている。このため、需給は緩和傾向にあり、国産トウモロコシ価格は弱含み

図１　トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
注１：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み２級黄トウモロコシ価格。
注２：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し２級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

での推移が見込まれている。ただし、生産と需要には依然としてギャップがあるため、下落幅は一定の範囲にとどまるとみられている。

各地の価格動向を見ると、主要養豚生産地である中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着の輸入トウモロコシ価格（関税割当数量内：１％の関税＋25％の追加関税）は、23年11月が１キログラム当たり2.18元（44円：１元＝20.23円(注)）となった。また、国産と輸入との価格差は、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.72元（55円）となったことで前月の同0.64元（13円）から同0.54元（11円）に縮小した。

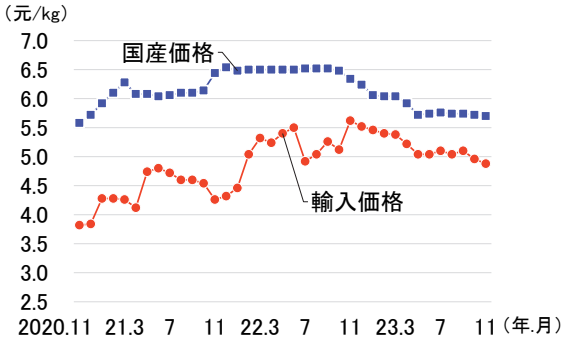
国産大豆価格、供給の制約などから横ばいでの推移と予想

2023年11月の国産大豆価格は前月比0.3％安となった（図２）。同月の国内の大豆需給を見ると、供給面では豊作が伝えられる中で市場供給量は十分な状況とされるが、価格上昇を期待して出荷を抑制する生産者が増えていると伝えられている。また、主産地である黒竜江省では、雪などの影響から物流への支障も報じられている。需要面では南部を中心に加工企業の販売低迷などから、取引業者は必要量のみを購入している状況とされている。また、備蓄在庫の保管能力が一部で上限に達するなど、全体的な動きは鈍くなりつつある。このため、需要は低調ながらも供給に一定の制約が生じていることで、国産大豆価格は、小幅安ながらも横ばいでの推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、23年11月が１キログラム当たり4.90元（99円、前年同月比15.0％安）と前年同月をかなり大きく下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同5.70元（115円、同10.0％安）と前年同月をかなりの程度下回った。国産大豆と輸入大豆の価格差は、同月の輸入大豆価格（山東省青島港引き渡し価格、課税後）が同4.88元（99円）となったことで、同0.82元（17円）と前月から拡大した。なお、22年11月以降の輸入大豆の価格は、前回公表に続き再度修正されている。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年に比べて高い水準で推移している。23年（１～10月）の輸入量は8241万トン（前年同期比14.6％増）、輸入額は同3.2％増の500億9000万米ドル（７兆1544億円：１米ドル＝142.83円(注)）と報告されている。主な輸入先はブラジル（総輸入量の72.4％）、米国（同23.1％）、アルゼンチン（同1.9％）である。

図２　大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
注１：国産価格は、山東省入荷価格。
注２：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年12月末TTS相場。

（調査情報部　横田　徹）

ブラジル

エルニーニョ現象による異常気象がトウモロコシおよび大豆生産に影響

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は2023年12月７日、23/24年度第３回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した（表、図１、２）。この調査は、春植えの夏期作物（大豆､第１期作トウモロコシなど）や秋植えの冬期作物（第２期作・第３期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など）の生産予測を毎月公表するものである。

23/24年度トウモロコシ生産は、エルニーニョの影響で播種（はしゅ）作業に遅れが発生

2023/24年度のトウモロコシ生産量は、前回より53万8300トン下方修正され、１億1852万8100トン（前年度比10.2%減）と前年度をかなりの程度下回り、３年ぶりに減少に転じると見込まれている。多くの地域でトウモロコシよりも収益性の高い大豆などへ転作が進んだことや、エルニーニョ現象により各地で異常気象が発生したことで、生産量は２回連続で下方修正された。

全生産量の４分の１弱を占める第１期作の生産量は、前回より55万800トン下方修正され2530万9300トン（同7.5％減）と前年度をかなりの程度下回ると見込まれている。エルニーニョ現象により南部地域では豪雨となり、土壌侵食や養分浸出など作物の初期生育に悪影響が出ている。一方、中西部など他の地域では、不規則な降雨や高温により播種作業に遅れが生じている。主産地の一つである南東部のミナスジェライス州では、播種期に当たる11月初旬に州南部で深刻な干ばつや高温に見舞われるなど、異常気象により播種作業が大幅に遅れた。ブラジル全土では作付面積の60.0％（11月30日現在）で播種が終了しているが、前年同期（71.2%）に比べて11.2ポイント遅れている。

また、全体の４分の３程度を占める第２期作の生産量は前回から大きな変更はなく、作付面積（同4.5%減）、単収（同6.7%減）とも減少し、生産量は9123万5100トン（同10.9%減）と前年度をかなりの程度下回ると見込まれている。

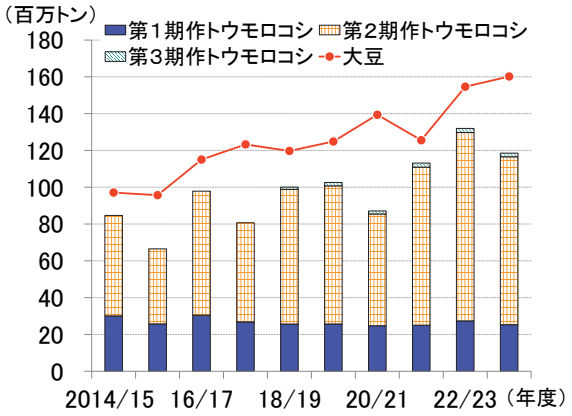
23/24年度の需給状況を見ると、生産量が減少する中、消費量は8446万5300トン（同6.1％増）と引き続き増加すると見込まれている。一方で輸出量は、北米での豊作からブラジル産の国際市場での流通量の減少が見込まれ3800万トン（同32.1％減）と前年度を大幅に下回ると見込まれている。

表　2023/24年度の主要穀物の生産予測

	作付面積（千ha）				単収（トン/ha）				生産量（千トン）			
	2022/23年度	23/24年度			22/23年度	23/24年度			22/23年度	23/24年度		
		(11月予測)	(12月予測)	前年度比(増減率)		(11月予測)	(12月予測)	前年度比(増減率)		(11月予測)	(12月予測)	前年度比(増減率)
穀物合計	78,548.5	78,872.6	78,874.4	0.4%	4.1	4.0	4.0	▲ 2.8%	319,966	316,710.4	312,300.9	▲ 2.4%
トウモロコシ	22,267.8	21,135.4	21,081.4	▲ 5.3%	5.9	5.6	5.6	▲ 5.1%	131,945.9	119,066.4	118,528.1	▲ 10.2%
第１期作	4,444.0	4,100.4	4,033.2	▲ 9.2%	6.2	6.3	6.3	1.9%	27,373.2	25,860.1	25,309.3	▲ 7.5%
第２期作	17,192.7	16,403.9	16,417.1	▲ 4.5%	6.0	5.6	5.6	▲ 6.7%	102,365.1	91,222.6	91,235.1	▲ 10.9%
第３期作	631.1	631.1	631.1	0.0%	3.5	3.1	3.1	▲ 10.1%	2,207.7	1,983.8	1,983.8	▲ 10.1%
大豆	44,080.1	45,295.6	45,309.0	2.8%	3.5	3.6	3.5	0.8%	154,609.5	162,420.9	160,177.2	3.6%

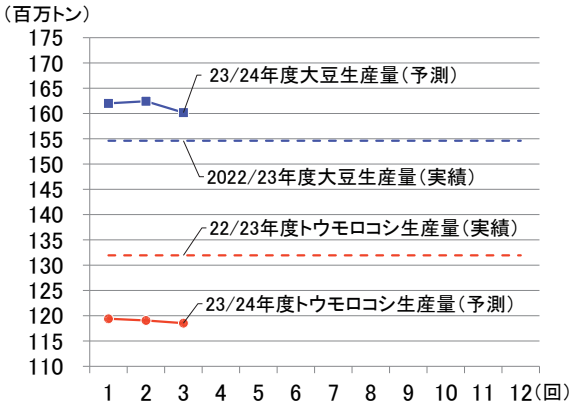
資料：CONAB
注１：2023年12月７日公表データ。
注２：第１作トウモロコシは、例年、９月ごろから南部より順次播種され、翌５月ごろまでに収穫をほぼ終える。
注３：第２作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で１～３月にかけて播種が行われ、６～９月に収穫される。
注４：第３作トウモロコシは、主に北部と北東部で５～６月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。
注５：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌５月ごろまでに収穫をほぼ終える。

図１　トウモロコシと大豆の生産量の推移



資料：CONAB
注１：2023年12月７日公表データ。
注２：2023/24年度は予測値。

図２　2023/24年度の生産予測の推移



資料：CONAB
注：生産予測の第１回は10月公表、以降毎月更新。

23/24年度大豆生産量は、降雨不足で中西部や北部を中心に下方修正

2023/24年度の大豆生産量は、前回より224万3700トン下方修正されたものの、１億6017万7200トン（前年度比3.6%増）と前年度をやや上回り、CONABが統計を取り始めて以来、最大となった22/23年度の生産量を更新すると見込まれている。23/24年度は、作付面積（同2.8%増）、単収（同0.8%増）とも前年度を上回ると見込まれるものの、エルニーニョ現象により広い地域で作物の初期生育への悪影響や播種作業の遅れが報じられている。このため、中西部、北部、北東部の多くの州では降雨不足や高温により単収が減少し、生産量が前年度を下回ると見込まれている。ブラジル全土では作付面積の83.1%（12月２日現在）で播種が終了しているが、前年同期（90.7%）に比べて7.6ポイント遅れている。

23/24年度の需給状況を見ると、輸出量は生産減により142万5200トン下方修正さ

れ１億158万9200トン（同1.6％増）と見込まれている。また、加工量はアルゼンチンでの増産予想などにより105万1500トン下方修正され5329万8200トン（同2.5％増）と見込まれている。

参考１　ブラジルのトウモロコシ需給動向

（単位：千トン）

年度	2020/21	21/22	22/23	23/24	増減率（%）
期首在庫量	15,312.1	13,515.3	8,095.9	6,348.2	▲ 21.6
生産量	87,096.8	113,130.4	131,945.9	118,528.1	▲ 10.2
輸入量	3,090.7	2,615.1	1,900.0	2,100.0	10.5
供給量	105,499.6	129,260.8	141,941.8	126,976.3	▲ 10.5
消費量	71,168.6	74,534.6	79,593.6	84,465.3	6.1
輸出量	20,815.7	46,630.3	56,000.0	38,000.0	▲ 32.1
需要量計	91,984.3	121,164.9	135,593.6	122,465.3	▲ 9.7
期末在庫量	13,515.3	8,095.9	6,348.2	4,511.0	▲ 28.9

資料：CONAB
注：2023年12月７日公表データ。

参考２　ブラジルの大豆需給動向

（単位：千トン）

年度	2020/21	21/22	22/23	23/24	増減率（%）
期首在庫量	4,220.8	8,822.2	4,739.6	3,598.0	▲ 24.1
生産量	139,385.3	125,549.8	154,609.5	160,177.2	3.6
輸入量	863.7	419.2	200.0	200.0	0.0
種子/その他	3,574.7	3,560.5	3,927.6	4,085.7	4.0
輸出量	86,109.8	78,730.1	100,023.5	101,589.2	1.6
加工量	45,963.0	47,761.0	51,999.9	53,298.2	2.5
期末在庫量	8,822.2	4,739.6	3,598.0	5,002.1	39.0

資料：CONAB
注：2023年12月７日公表データ。

（調査情報部　井田　俊二）